

山本幸久著「ミックス。」(ポプラ文庫)

下野段楓真さん▽三次市立君田中2年

この本は、卓球を通して自分の思いを遂げる話だ。富田多満子という、子どもの頃に天才卓球少女といわれていた女性が主人公。彼女は□年も卓球から離れて、普通の社会人になっていた。

ある日、多満子は恋人を、同じ職場の女性社員に奪われてしまう。元恋人たちは卓球で、男女混合ダブルスのペアを組んで大活躍する。その様子をテレビで見た多満子は再び卓球を始め、萩原という元プロボクサーの男性とペアを組む。そして、猛練習を続け、元恋人ペアに勝負を挑む。

僕は中学校に入学してから卓球を始め、3年間続けていこうと頑張っている。ただ、最初の頃は何の目標もなく、ただ卓球をするという軽い気持ちだった。試合では負けそうになるとすぐ諦めていた。

この本を読んでいくうちに、主人公が必死で目標を達成しようと練習に励む姿が頭に浮かんだ。僕は「自分はこのままでいいのか」と考えるようになった。

次第に「負けたら次はこれをしよう」「勝つためにこれをする」などの目標を、自分で決めて練習しないと駄目だと思えるようになった。何事も目標を決めてやり抜くことが大事だと分かってきた。練習してきたことが試合で生かせるようになったとき、目標の大切さがすごく分かる。

さらに、この本にはサーブやラリーでの技や戦術も書いてあり、とても勉強になった。部活の仲間とみなで頂点を目指して頑張りたい。